

# 平成21年度 【 学園研究費助成金＜A＞ 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ イバシ ナコ  
氏名 石橋 尚子

研究期間 平成21年度

研究課題名 理想自己と道德性に関する発達的研究 ―全学園の実態調査の実施と分析―

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	石橋 尚子	教育学部	教授
研究分担者	山口 雅史	人間関係学部	教授
研究分担者	梶山美恵子	附属幼稚園	園長
研究分担者	中村太貴生	附属小学校	校長
研究分担者	佐久間治子	梶山高・中学校	教諭

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

子どもたちが将来、どのような人間に『なろう』と思うかは、それぞれの子どもが持つ目標としての人間像(理想の自己像)によって決まると考えられる。したがって、本学園の「人間になろう」という教育理念を実践するためには、子どもたちが自ら成長・発達していく上での理想とする人間像(理想自己)を、教師が適切に援助しつつ、育てていくことが必要である。そこで、そのような教育実践の基礎となる資料を収集することを目指し、子どもたち一人一人がどのような「人間になろう」と思っているのかの実態を把握するため、昨年度に引き続き「子どもたちの持つ理想自己」に関する質問紙調査を行いたい。

## 2. 研究方法等 (300字以内で記述)

昨年度は、梶山女学園中学校生徒 620 名、高等学校生徒 1,145 名、梶山女学園大学教育学部生 102 名、教師(幼稚園・小学校・中学校・高等学校) 111 名の計 1,978 名を対象に調査を行った。その結果を踏まえ、本年度は主に小学生を対象とした調査の実施を試みる。

まず、附属小学校の協力を得て質問項目(理想自己 22 項目の文章表現)を十分に検討し、なるべく幅広い学年に実施可能な質問紙を作成した。その結果、小学 3 年生～6 年生の 234 名(3 年生 59 名、4 年生 59 名、5 年生 58 名、6 年生 58 名)が調査対象者となった。次に、梶山女学園大学教育学部 1 年生 134 名、人間関係学部生 131 名の計 265 名のデータを追加収集し、昨年度収集の学生データとともに高校生との関連を検討したいと考える。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本報告書作成時は、データ分析中である。小学生の基本集計結果の一部を紹介するに留めたい。理想自己 22 項目について、到達状況の自己評価を求めた結果が「現在の自分」。将来の理想像 5 項目を選択させた結果が「将来の自分」である。

《現在の自分》3 年生：22 項目中 21 項目で、「そのとおり」「だいたいそのとおり」の肯定回答率が 60%以上であった。その内、11 項目が肯定回答率 80%以上で、自己評価が高い。項目 17「言葉づかいや行いが女の子のらしいかどうかは気にしない」のみ否定回答率 63%で、「気にしている」。4 年生：22 項目中 21 項目で肯定回答率 75%以上。その内、肯定回答率 80%以上 18 項目、90%以上 7 項目で、3 年生以上に自己評価が高い。項目 17 については 69%が否定回答で、3 年生以上に「女の子らしさ」を気にしている。5 年生：22 項目中 7 項目で肯定回答率 60%。その内、肯定回答率 80%以上 6 項目。4 学年の中では最も自己評価が低い。項目 11「自分が好きである」と項目 17 は、肯定回答と否定回答が半々であった。6 年生：22 項目中 19 項目で、肯定回答率 60%以上。その内、肯定回答率 80%以上 10 項目。項目 17 は否定回答率 57%であった。※理想自己への到達状況に関する自己評価は、小学生>高校生>中学生の順で高い。

《将来の自分》「なりたい私」の第 1 位は、4 学年すべて項目 1 の「思いやりの気持ちを持っている(3 年生 58%、4 年生 53%、5 年生 66%、6 年生 62%)」人であった。第 2 位は、3 年生：項目 5「友だちからたよりにされている(42%)」、4・5 年生：項目 16「友だちから好かれている(4 年生 46%、5 年生 50%)」、6 年生：項目 21「やり始めたことは最後までやる(45%)」で、2 位以下には若干の違いがみられた。6 年生の上位選択項目は、中・高生の上位選択結果と類似していて、興味深い。小学生から大学生までを見通したデータ分析が肝要である。さらに、現在と将来との関係性、出身園・校との関連性、教師データとの比較など、多面的に分析中である。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①理想自己	②現在の自分	③将来の自分	④質問紙調査
⑤小学生	⑥大学生	⑦肯定回答率	⑧理想像の選択

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

○山口雅史・石橋尚子・椋山美恵子・中村太貴生・佐久間治子 教師が生徒に期待する理想の人間像 椋山女学園大学研究論集 第 40 号 社会科学篇 2009 年 58-62.

○石橋尚子・山口雅史 理想自己に関する発達的研究(1)—中学生・高校生の自己評価を中心として— 日本教育心理学会第 51 回総会発表論文集 2009.9.21 328.

○山口雅史・石橋尚子 理想自己に関する発達的研究(2)—教師による回答を中心として— 日本教育心理学会第 51 回総会発表論文集 2009.9.21 329.